

福岡市立学校における業務改善推進者養成
及び業務改善支援業務

実施報告書

令和7年3月

株式会社 先生の幸せ研究所

目 次

1	実施概要	1
2	各対象校の取組みまとめ	3
3	取組みによる変化	6
4	取組みの方向性と考察	8
5	市教委への提案	12

1 実施概要

(1) 本事業の目的

専門的な知識・経験を有したコンサルタントが、研修会の実施や、対象校から選出された業務改善推進者の支援を行い、対象校の主体的な業務改善を推進する。

また、学校単位での主体的な業務改善を推進することで、学校の意識改革、改善意欲の高い人材の育成を行い、主体的な業務改善活動が対象校以外にも拡大されることで、全校に自走的な業務改善体制を構築し、本市立学校における働き方改革の推進を図る。

(2) 対象校一覧

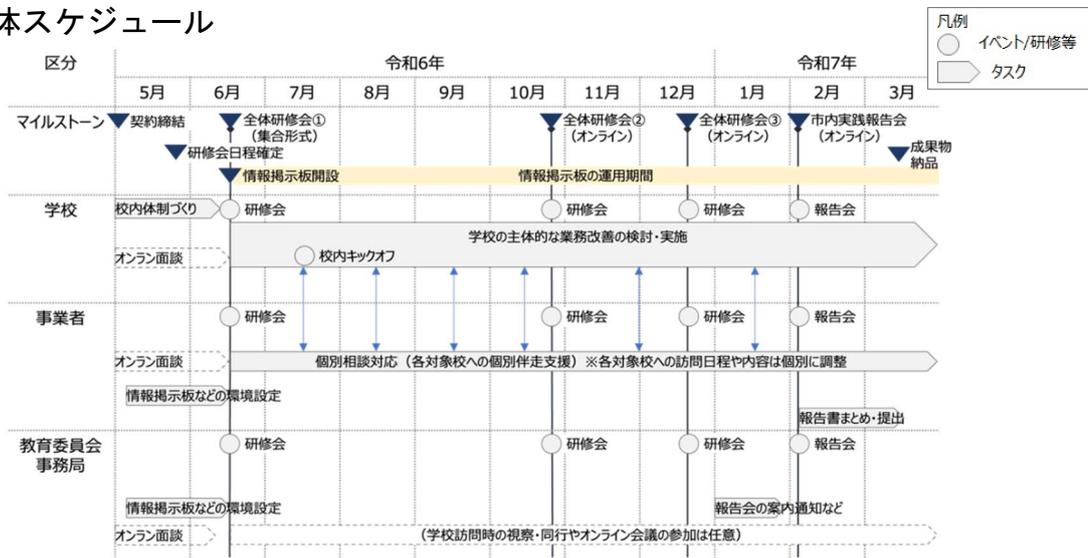
行政区	学校名
東区	青葉小学校
	和白小学校
博多区	春住小学校
	東光小学校
中央区	小笹小学校
	春吉小学校
南区	大池小学校
	弥永西小学校
城南区	田島小学校
早良区	原小学校
	高取小学校
西区	壱岐小学校
	下山門小学校

計 13 校

行政区	学校名
博多区	席田中学校
中央区	当仁中学校
南区	柏原中学校
城南区	城西中学校
早良区	次郎丸中学校

計 5 校

(3) 全体スケジュール



(4) 主な支援内容

・全体研修会（第1回～3回）

第1回は、集合形式で各対象校から管理職＋推進メンバーが参加して伴走支援のイメージ合わせや年間の見通しを検討し、校内キックオフを踏まえて2回目以降は推進メンバーが参加して取組み状況の共有、実践交流の場を設定した。



第1回全体研修会

・校内キックオフ（学校訪問）

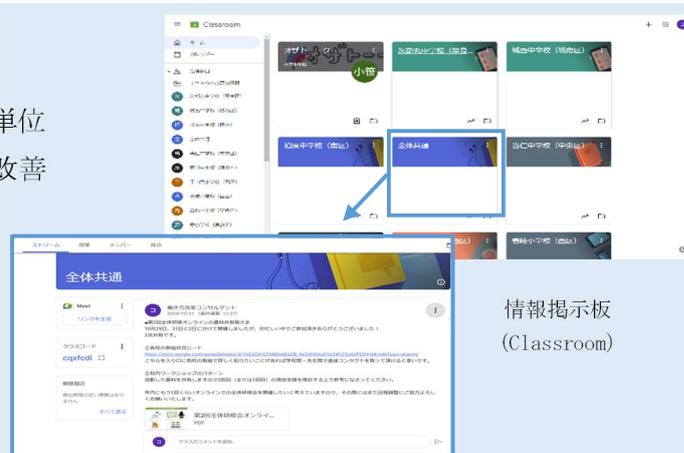
講師によるインプットの後、グループでのワークショップを行い、業務改善のアイデア出しや取組みテーマの検討、発表などを行った。



校内キックオフ研修

・情報共有掲示板の運営

「Google Classroom」を活用し、学校単位での個別相談への対応や、他校での業務改善事例の共有などを実施した。



情報掲示板
(Classroom)

・市内実践報告会（オンライン）

令和7年1月30日、2月5日の2日間にわたって、市内実践報告会（オンライン）を開催し、「どこに異動しても大丈夫な福岡市」を目指して各対象校が今年度の実践発表を行い、市内からも多くの学校や先生が参加した。

小笹小学校（実践発表）	
今年度の取り組み内容は？	
フレックス出退勤→30分前倒し（希望者）	花壇の水やり→スプリンクラーの設置
特別の見直し→金曜日を簡単清掃に	各種アンケートを研修の時間で済ませる
指導案の見直し→略案、テーマの柱を記号で	5年生が道徳で交換授業を実施
テストの採点、宿題チェック→SSSの活用	
他校にお勧めしたい取り組みは？	他校に気を付けてほしいポイントは？
フレックス出退勤	
次年度に向けて取り組むことは？（具体的な取り組み、仕組みづくりなど）	
異学年での対話を通じての授業改善	
今年度の流れを鑑み、毎週金曜日に30分程度の対話の時間（オズトーク）を確保。翌週の自分や子ども達が笑顔になるための具体的な方法を話し合う時間に。	

実践報告会（オンライン）

2 各対象校の取組みまとめ

第1回全体研修会を開催した後、学校訪問などを行い、校内で業務改善の取組みのキックオフを実施し、各校での取組み検討やチーム作りを支援した。

キックオフ後は、各校で管理職や推進チームが旗振り役となって校内で各取組みテーマをプロジェクト化するなどし、下表のとおり実践を行った。

※実践の中には、検討の結果、実現しなかったものも含まれる。

(1) 小学校

学校名	R 6年度の実践	R 7年度取組み予定
青葉小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時制の見直し(サマータイム) ・ 定時退校日の設定 ・ SSSの有効活用 ・ 終礼の短縮化 ・ チームでの年間計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期制への移行 ・ 時制の見直し ・ SSS活用のシステム化
和白小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員室の整理 ・ 時制の見直し ・ 交換授業・ローテーション給食の導入 ・ 出席確認シートの運用 ・ 職員連絡の短縮 ・ SSSの有効活用 ・ 所見の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年研修の見直し ・ 第2職員室の整備
春住小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレックスタイム導入 ・ 学年担任制の導入 ・ ICT活用のサポート ・ 職員専用の駐輪場設置 ・ 終礼の短縮化 ・ SSSの有効活用 ・ 特別教室使用割(紙管理)のICT化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善 ・ 授業時数の見直し
東光小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専科の加配 ・ 時制の見直し ・ 長期休業中のウサギのエサ・花の水やり自動化 ・ 学級通信の簡略化 ・ 時数カウントの変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後話し合って検討
小笹小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ フレックスタイム導入 ・ 時制の見直し(清掃) ・ 指導案の簡略化 ・ SSSの有効活用 ・ 花壇の水やり自動化 ・ 研修アンケート効率化 ・ 交換授業(5年道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善 ・ 継続改善の仕組みづくり(対話の時間：オザトーク)
春吉小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登校指導の見直し ・ 朝会・行事の簡素化 ・ 終礼の短縮化 ・ 職員室掲示板の電子化 ・ 学級通信の簡略化 ・ 近接学年会+バディ制 ・ 情報共有のICT化 ・ 成績処理の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時制の見直し

学校名	R 6 年度の実践	R 7 年度取組み予定
大池小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室の環境改善 ・教科書ロッカーの作成・整理 ・配布チラシの削減 ・時間割の張り出し ・目指す児童像の策定 ・チーム担任制 ・時制の見直し(清掃) 	<ul style="list-style-type: none"> ・時制の見直し ・音楽会のあり方見直し ・家庭学習のあり方見直し ・個人懇談のあり方見直し
弥永西小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室のフリーアドレス化 ・会議の精選 ・特別教室の整理 ・学級通信の簡略化 ・時制の見直し ・長期休業中の全体出勤日を減少 ・交換授業(教科担任制) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域ボランティアアプリの導入 ・企業コラボした総合的な学習の実施 ・行事の見直し(懇談会) ・時制の見直し ・委員会・クラブ運営の見直し
田島小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・計画年休の取得 ・SSS の有効活用 ・掲示板の貼り換え廃止 ・連絡会の開始時間変更 ・時制の見直し ・部会、会議の精選 ・キャリアアップ研修枠の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・所見の回数削減
原小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・フレックスタイム導入 ・会議・部会の精選 ・DX 化の推進(資料共有・アンケートなど) ・AI ドリルの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の見直し ・授業時数の削減 ・生成 AI の活用
高取小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・時制の見直し(月 1 研修・帯タイムの活用、学期初めの 5 時間授業など) ・SSS の有効活用 ・行事の精選 ・長期休業中の全体出勤日を減少 ・教科担任制の部分導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の回数削減 ・家庭学習のありかた見直し ・個人面談の削減(1 学期初め)
壱岐小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善推進委員会の設置 ・校務分掌見直し ・SSS の有効活用 ・連絡会の短縮 ・休憩室の充実 ・SSS による休み時間の見守り ・スクリレ導入 ・配布チラシの削減 ・児童個人 BOX の設置 ・フレックスタイム導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間プール活用 ・教科担任制の検討 ・時制の見直し ・行事の見直し ・勤務時間の見直し
下山門小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信の簡略化 ・時制の見直し(短縮時制を週 2 で導入) ・昇降口開錠時刻の変更 ・チーム担任制の部分導入(教科担任制、宿題チェック、給食準備など) ・チラシの配布方法変更 ・職員室の環境改善 ・SSS の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの質の向上 ・外部委託(清掃、習字の講師、プール指導員) ・チーム担任制の更なる導入 ・懇談会のあり方見直し

(2) 中学校

学校名	R 6 年度の実践	R 7 年度取組み予定
席田中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指導員の増員 ・行事の精選・統合 ・外部委託(プール清掃・テント設営) ・SSS などの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選
当仁中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導対応の迅速化 ・管理職による個別相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶ生徒の育成 ・授業改善
柏原中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・時制の見直し ・戸締り当番の見直し ・SSS や非常勤講師の増員 ・SSS の有効活用 ・定期考査の体制見直し ・土曜授業の振替見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 学期制の導入
城西中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・チーム担任制の導入 ・職員室のフリーアドレス化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・チーム担任制の定着化 ・定期考査の廃止
次郎丸中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・時制の見直し ・職員朝会の効率化 ・職員会議・運営委員会のペーパーレス化 ・朝会の短縮化 ・単元テストの見直し ・時間割確認の効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ・時制の見直し ・期末考査、実力テストの回数見直し ・改善活動を継続するための仕組みや場づくり

合計約 150 件の実践

◆実践が多かった取組み

(1) 小学校

- ・時制の見直し
- ・SSS の活用促進
- ・職員室の環境整備
- ・行事の精選
- ・学級通信の簡略化

(2) 中学校

- ・考査(テスト)の見直し
- ・SSS の活用促進
- ・時制の見直し

3 取組みによる変化

(1) 対象校における時間外在校等時間の推移

対象校 18 校における R5 年度と R6 年度の一人当たりの時間外在校等時間の月平均（各年 4～1 月）を比較すると、17 校で減少が見られた。

右表のとおり、対象校 18 校全体の平均として月約 5 時間 30 分の減少となり、各対象校での取組みが定量的な成果に現れている。

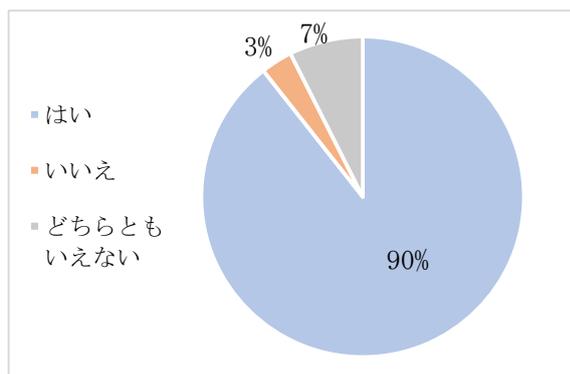
対象校（18 校）の時間外在校等時間 R5-R6 比較（各 4～1 月の月平均）

区分	R5	R6	差
小学校	31:52	26:43	-5:09
中学校	38:30	31:56	-6:33
全体	33:43	28:10	-5:32

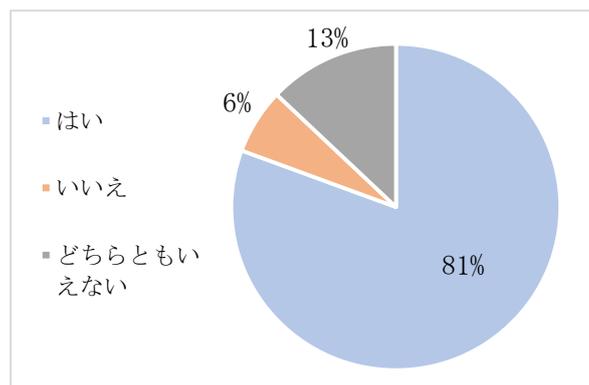
(2) アンケート結果（n=31 件 ※回答率：65%）

各対象校の管理職及び推進担当者にアンケートを実施した結果、今回の業務改善支援に対して以下の回答が得られた。

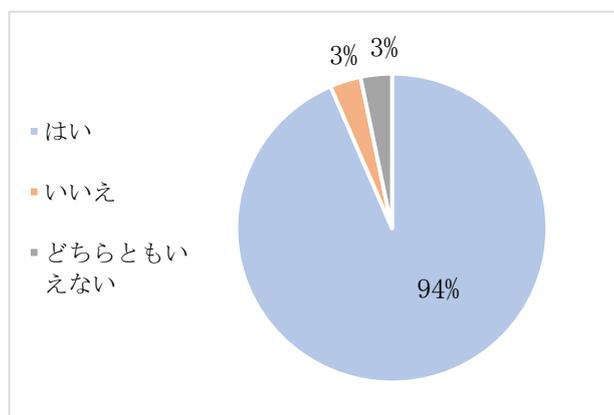
Q コンサルタントの支援は役に立ったと感じますか？



Q 業務の負担が軽減されたと感じますか？



Q 職場の雰囲気や業務改善への意識は向上しましたか？



【主な意見】

- ・ 全職員で取り組めば改善できることがたくさんあることを多くの先生が感じる事ができた
- ・ 職員の在校時間が明らかに短くなりました。また、職員室での会話が増え雰囲気がよくなった

(3) まとめ

管理職及び推進担当者の多くが、今年度の業務改善支援の有効性を感じており、時間外在校等時間についても一定の削減を行うことができたといえる。

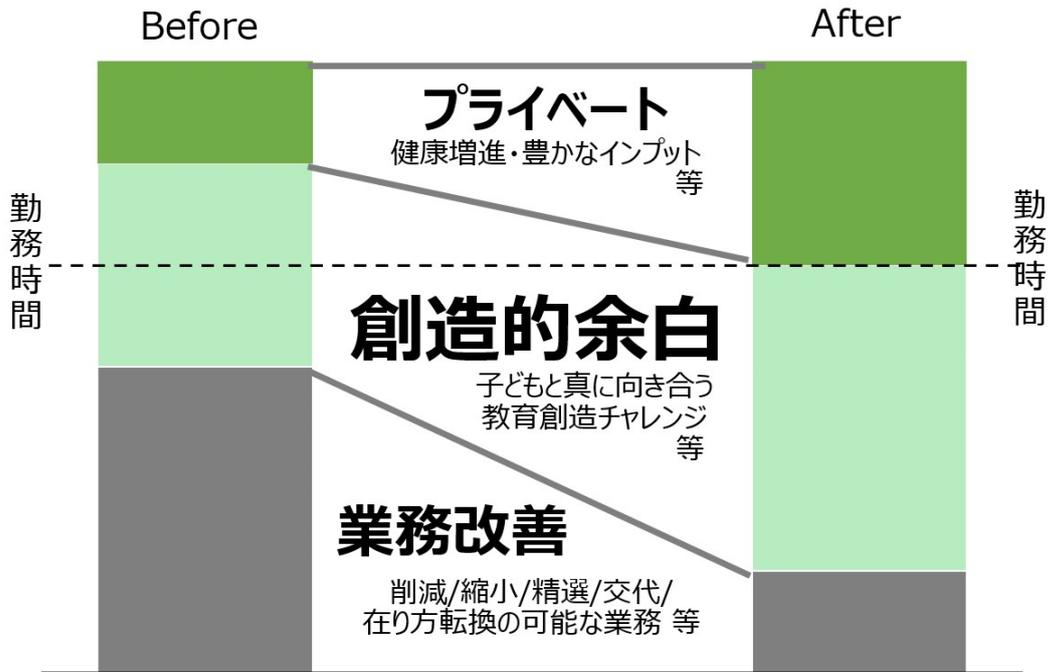
さらに、前述の各校の取組みを見てもわかるように、コンサルタントが直接学校を訪問して行った校内キックオフ以後、ほとんどの学校が校内の教職員や管理職のみの力で業務改善を進めることができたにも関わらず、アンケートでは「コンサルタントの支援が役に立った」と回答した割合が高かった。このことから、教職員や管理職は業務改善のアイデアを形にして進めることができる可能性を十分に備えており、今学校に必要なものは、業務改善のきっかけとなる外部からの働きかけであると考えられる。

また、校内の皆で本音を出し合うという今回の取組みを通して、職場内に対話する雰囲気が醸成されたことがアンケートからもうかがうことができ、今後の自走にも期待できるものとなった。

4 取組みの方向性と考察

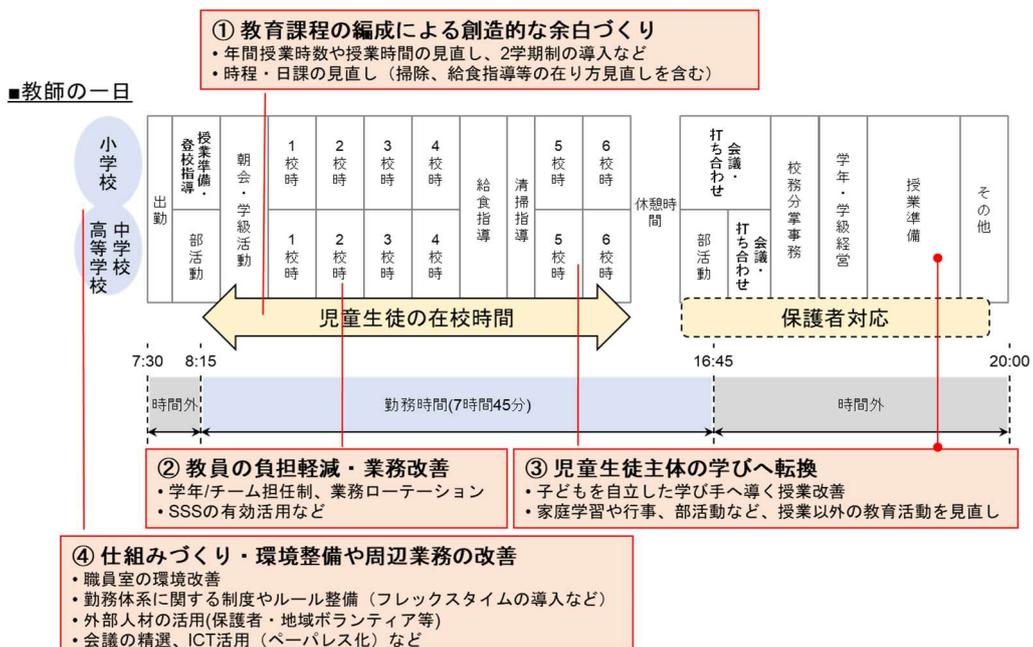
(1) 業務改善の目的

単なる時間や業務削減だけに焦点を当てると、教師のやりがいも一緒に損なわれてしまう恐れがあるため、創造的余白（≒働きがいや質の高い学びに繋がる余白）をつくるために取り組むことが大切になる。



(2) 学校の主体的な業務改善で有効な打ち手

学校裁量で取り組める打ち手は大きく4つの方向性にまとめられる。



【方向性①】教育課程の編成による創造的な余白づくり

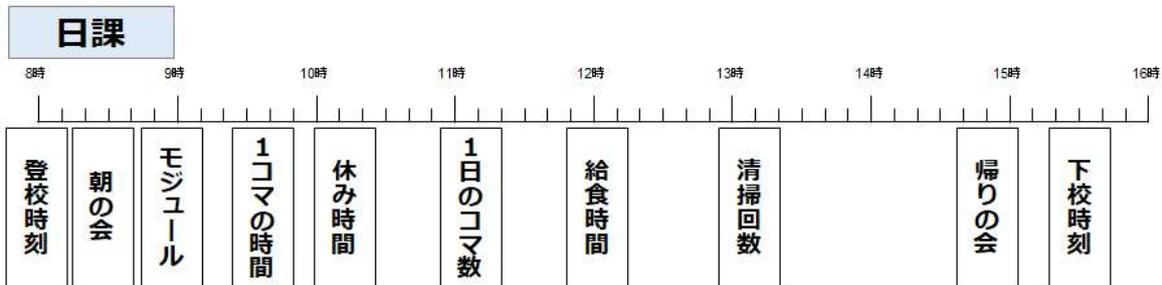
年間、週・月、日で動かせる要素（パラメーター）を工夫しながら学校裁量で検討・変更が可能となる。

年間

- 年間総時数の見直し（余剰0へ）
- 時数をなるべく教科にカウント
- 行事の見直し（精選・簡略化など）
- 季節に見合った教育課程

週・月

- 曜日ごとのコマ数（5時間授業日）
- 短縮時程・特別時程設定
- 全校集会の見直し



【方向性②】教員の負担軽減・業務改善

学年・チーム担当制やローテーション等を導入することで、質の向上と負担軽減を両立することが可能となる。

	1組担任 A	2組担任 B	3組担任 C
朝の会	A	B	C
体育	A	B	C
社会	A	B	C
外国語	A	B	C
算数	A	B	C
給食	A	B	C
国語	A	B	C
帰りの会	A	B	C

種類	特長
学級担任制	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子を1日を通して観察できる(児童や保護者にとって安心) ・情報交換の時間が不要 ・授業時間の柔軟な運用がしやすい ・教科横断的な授業が可能
学年(チーム)担任制 (交換授業、教科担任制等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を担当教科に集中でき、授業の質が向上できる ・学級担任と相性が合わない児童も別の教科で活躍できる ・多様な視点で児童を指導できる ・年度途中の教員の未充足に対応しやすい ・中学校への移行がスムーズ
専科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い授業が可能 ・教員の負担軽減の効果が特に大きい

交換授業+教科担任制の専科 (イメージ図)

	1組担任 A	2組担任 B	3組担任 C
朝の会	A	B	C
体育	A	B	C
社会	B	A	C
外国語	C	B	A
算数	D	D	D
給食	A	B	C
国語	A	B	C
帰りの会	A	B	C

交換授業+教科担任制の専科+学年(チーム)担任制 (イメージ図)

学年(チーム)担任	A	B	C
朝の会	A	B	C
体育	A	B	C
社会	B	A	C
外国語	C	B	A
算数	D	D	D
給食	A	B	C
国語	A	B	C
帰りの会	A	B	C

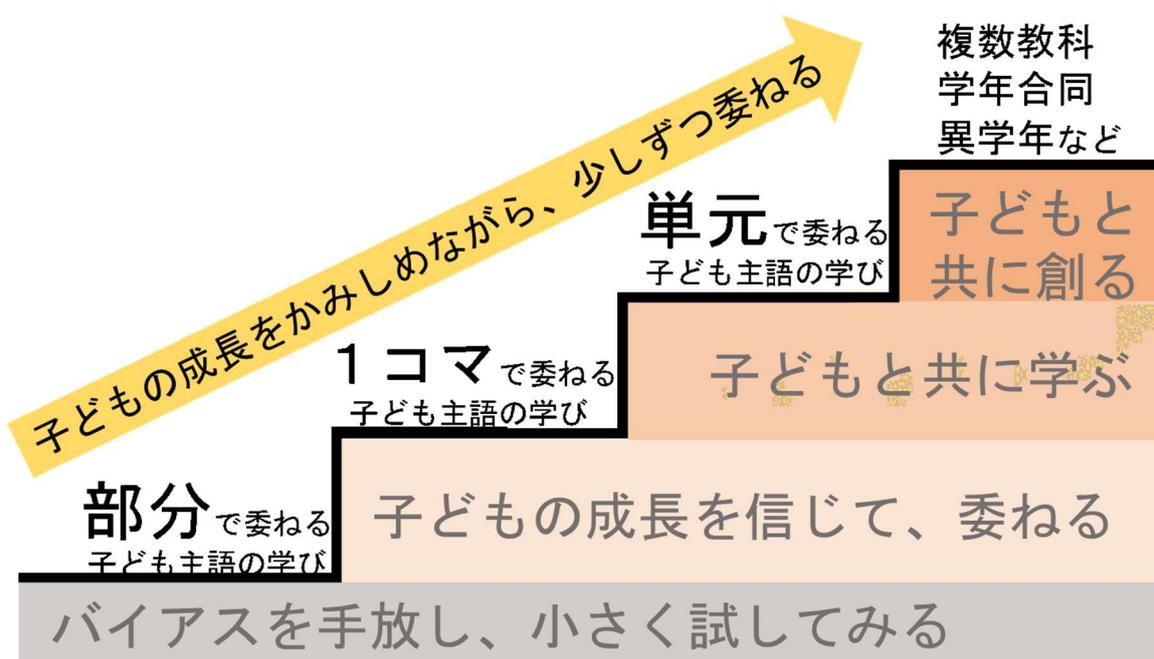
交換授業 ※同一教科の単元同士で交換する場合もある

教科担任制の専科

ローテーションで3人の担任が各クラスを指導

【方向性③】児童生徒主体の学びへ転換

これまで教師がお膳立てしていたことを丁寧に「手放す」「委ねる」「子どもの自由裁量を増やす」ことで、授業以外を含めた教育活動に関する質の向上と負荷の軽減を同時に実現可能となる。



【方向性④】仕組みづくり・環境整備や周辺業務の改善

仕組みづくり・環境整備や周辺業務の改善については取組みが多岐にわたるが、学校裁量で取り組めることも多い。

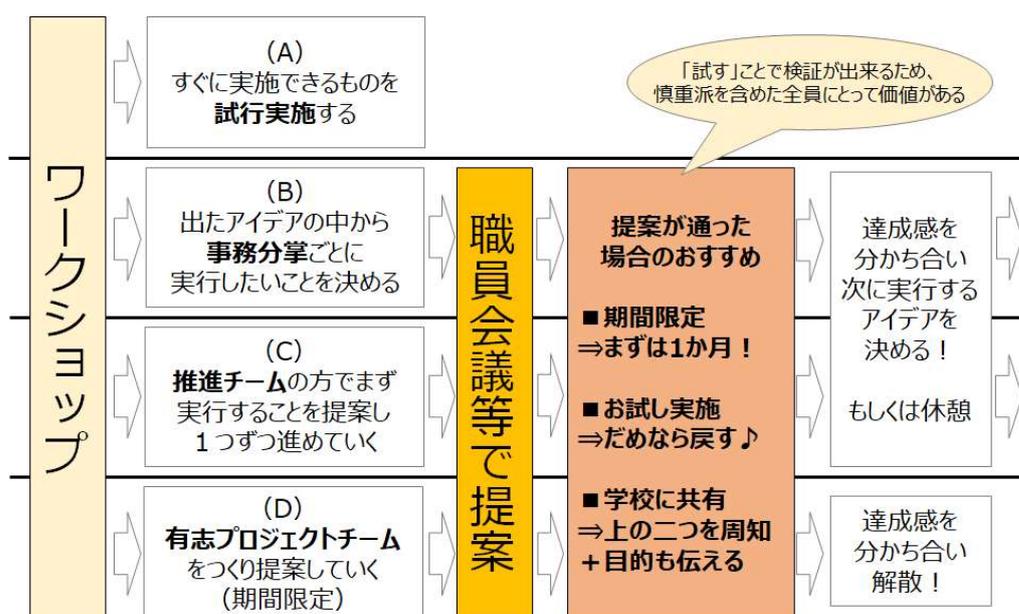
分類	取り組み例
環境改善	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の環境改善（フリーアドレス化など） 備品や空き教室の整理整頓 餌やりや花壇の水やり自動化
勤務体系に関する制度やルール整備	<ul style="list-style-type: none"> フレックスタイムの導入 定時退校日の設定 管理職による施錠（退勤時間の上限設定）
外部人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域ボランティアの協力
校務のICT化	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料やお便りのペーパーレス化 欠席連絡やアンケートのフォーム化 掲示物の精選やモニター活用
その他の改善（周辺業務）	<ul style="list-style-type: none"> 会議の精選 部会・委員会の運営効率化 分掌業務の見直し（統廃合など） 配布チラシの削減（チラシボックスの設置）

(3) 校内で自走していくためのアプローチ

最初に校内全員で集まってキックオフ（ワークショップ）を行うことで、大まかに取り組むテーマや方向性を合意する。



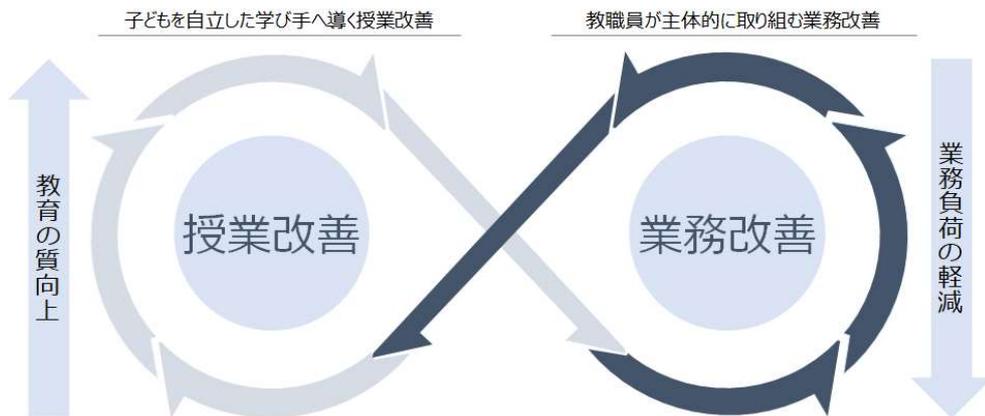
ワークショップで出たテーマ・アイデアを基に素案を検討し、まずは試してみる（試行実施）ことで変化を起こす。



5 市教委への提言

(1) 学校の主体的な取組みを支えるアプローチ

業務改善（余白づくり）の目途が立った段階で、「子どもを自立した学び手へ導く」授業改善に取り組むことで、「質の高い学び」と「持続可能な学校」を同時に実現することが可能となる。



(2) これから目指す姿（教育委員会・学校（教員）の在り方）

学校や教師が「自らの力で学校を変える挑戦者」となり、主体的に改善活動行っていくことを後押しするために、教育委員会事務局がこれまでの学校に指示・管理する役割から「学校の挑戦を見守り、応援する最高のパートナー」に変わっていくことが大切になる。

また、業務改善、授業改善については、一度の取組みで完結するものではないため、学校を取り巻く環境の変化や人事異動にも対応できるよう、学校が自走して取組みを継続できる体制を構築していくことが望ましく、それを支援し続けることが必要となる。

